

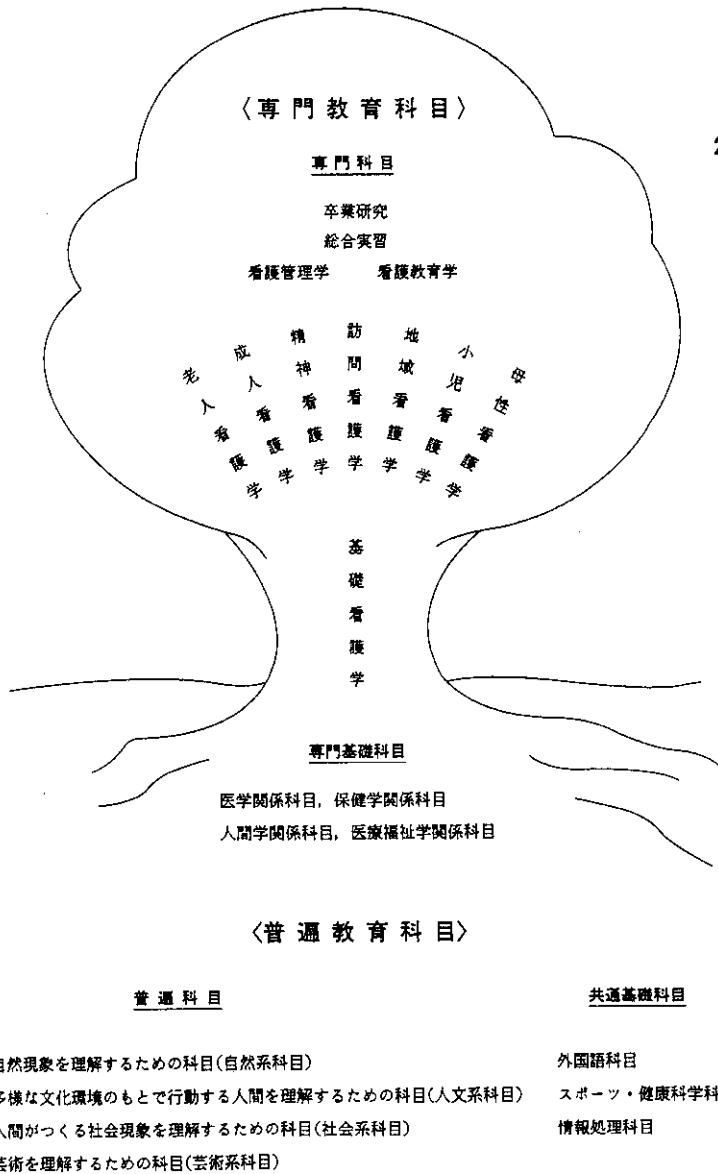
## 大学における臨地実習の現状

# 大学における看護学教育

－技術教育を考える上での1大学例－

千葉大学看護学部 正木治恵

## 1. 看護学科の教育課程の構成と特徴



## 2. 身体侵襲を伴う技術に関する実習実施体制

(実施している○、実施していない×)

	学内演習	実習前チェック	助産実習以外の 臨地実習	助産実習
注射	○	○(人形)	△(筋注のみ)	×
採血	○	△	△(血糖のみ)	×
吸入	○	○	○	○
吸引	○(人形)	△	△	○
洗腸	○	△	△	○
導尿	○	×	×	○
指導体制	○:グループ毎(学生5~10人)に指導者がつく	△:受け持ちケースに応じて必要が生じた場合に教員がチェックを行う	△:受け持ちケースに応じて必要が生じた場合に教員の指導の下に行う	○:学生1人につき必ず臨地指導者の指導の下に行う

## 3. 学生の看護実践能力向上に向けたカリキュラム改革案(現在取り組み中)

(文部科学省からの報告書「大学における看護実践能力の育成の充実に向けて」を受けて)

- ・ 教育内容のコアの精選
- ・ 学生の看護実践能力の到達度の明確化と適正評価
  - 態度・行為を備えた「看護基本技術」
  - 「看護ケア基盤形成の方法」の看護実践への統合
- ・ 臨地実習に望まれる要件
  - 無資格の学生が可能な実習の法的保証
  - 実習施設側の実習指導に関わる人的確保

表2 『看護基本技術』の学習項目

学習項目	学習を支える知識・技術
a. 環境調整技術	療養生活環境調整（温・湿度、換気、採光、臭気・騒音、病室整備）、ベッドメイキング、リネン交換
b. 食事援助技術	食事介助、経管栄養法、栄養状態・体液・電解質バランスの査定、食生活支援
c. 排泄援助技術	自然排尿・排便援助、便器・尿器の使い方、摘便、オムツ交換、失禁ケア、膀胱内留置カテーテル法、浣腸、導尿、排尿困難時の援助、ストーマ造設者のケア
d. 活動・休息援助技術	歩行介助・移動の介助・移送、関節可動域訓練・廃用性症候群予防、体位変換、入眠・睡眠の援助、安静
e. 清潔・衣生活援助技術	入浴介助、部分浴・陰部ケア、清拭・洗髪、口腔ケア、整容、寝衣交換など衣生活支援
f. 呼吸・循環を整える技術	酸素吸入療法、吸引、気道内加湿法、体位ドレナージ、体温調整
g. 創傷管理技術	包帯法、創傷処置、褥創予防ケア
h. 与薬の技術	薬理作用、薬物療法、経口・外用薬の与薬方法、皮下・皮内・筋肉内・静脈内注射の方法、点滴静脈内注射・中心静脈栄養の管理、輸血の管理
i. 救命救急処置技術	救急法、意識レベル把握、気道確保、人工呼吸、救命救急の技術、閉鎖式心マッサージ、止血
j. 症状・生体機能管理技術	バイタルサインの観察、身体計測、症状・病態の観察、検体の採取（採血、採尿・尿検査、血糖測定）と扱い方、経皮的・侵襲的検査時の援助（心電図モニター・パルスオキシメータ・スパイロメータの使用、胃カメラ、気管支鏡、腰椎穿刺）
k. 感染予防の技術	スタンダードプリコーション（標準予防策）、洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、医療廃棄物管理
l. 安全管理の技術	療養生活の安全確保、転倒・転落・外傷予防、医療事故予防、リスクマネジメント
m. 安楽確保の技術	体位保持、電法等身体安楽促進ケア、リラクゼーション、指圧、マッサージ

表3 『看護基本技術』を支える態度や行為の構成要素

態度・行為の要素	説明
知識と判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術に関する目的・必要性、実施方法に関する正確な知識を持っている。</li> <li>・ 対象者の症状と他看護職者が実施している行為を見た時、既習知識との関連で理解する。</li> <li>・ 対象者に対する技術適用の意義と必要性を的確に判断をする。</li> <li>・ 対象者の気持ち・考え・思いや要望を把握し、それを考慮した方法を考える。</li> </ul>
実施と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 準備・施行・後始末の各段階を基本的な法則に基づいて正確に実行する。</li> <li>・ 対象者の反応を見ながら、技術の実行方法を調整する。</li> <li>・ 実施した成果・影響を客観的に評価する。</li> </ul>
対象者への説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術施行の目的・必要性・期待される効果及び事後の影響につき、対象者の理解状況に合わせた方法で説明する。</li> </ul>
安全・安楽確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術施行過程における安全確保対策について判断し、実行する。</li> <li>・ 対象者にとって安楽な方法を判断し、それを実現しながら、技術を施行する。</li> </ul>
プライバシーの保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を施行する。</li> </ul>
指示確認 報告・記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要な指示かどうかの判断と指示の確認を実行する。</li> <li>・ 報告の時期・相手を適切に選び、実行する。</li> </ul>
個別性への応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対象者の個別性（年齢・性別、病状、習慣・嗜好、心理状態）に応じた方法で実行する。</li> </ul>
家族相談・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じ、家族の意思や心情を考慮しながら説明する。</li> <li>・ 必要に応じ、対象者のセルフケアや家族ケアのための相談・助言・指導を行う。</li> </ul>